

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	日本語 I	0001	履修単位	2	4																				武田 拓 梅木 俊輔	
一般	必修	日本語 II	0002	履修単位	2		4																			武田 拓 梅木 俊輔	
一般	必修	技術者の日本語 I	0003	履修単位	2	4																				犬飼 亜 有美	
一般	必修	技術者の日本語 II	0004	履修単位	2		4																			犬飼 亜 有美	
一般	必修	日本の社会と文化 I	0005	履修単位	2	2	2																			朱 琳	
一般	必修	日本語 III	0006	履修単位	2			4																		朱 琳	
一般	必修	技術者の日本語 III	0007	履修単位	2			2	2																	犬飼 亜 有美	
一般	必修	日本の社会と文化 II	0008	履修単位	2			2	2																	犬飼 亜 有美 梅木 俊輔	
一般	必修	日本語 IV	0009	履修単位	2				4																	犬飼 亜 有美	
一般	必修	日本語 V	0010	履修単位	2					4																佐藤 和 美,池 田 智子	
一般	選択	数学	0011	履修単位	2					2	2															佐藤 公 男	
一般	必修	日本語 VI	0013	履修単位	2						4															佐藤 和 美,池 田 智子	
専門	選択	一般科学演習 I	0012	履修単位	2					2	2															菅野 浩 徳	
専門	選択	一般科学演習 I	0014	履修単位	2					2	2															東畑 陽 介	
一般	必修	日本語 VII	0014	履修単位	2							2	2													佐藤 和 美	
専門	選択	一般科学演習 II	0015	履修単位	2							4														平塚 眞 彦	
専門	選択	一般科学演習 III	0016	履修単位	2								4													平塚 眞 彦	
専門	選択	一般科学演習 II	0017	履修単位	2							4														佐々木 正明	
専門	選択	一般科学演習 II	0018	履修単位	2							4														鈴木 順	
専門	選択	一般科学演習 III	0019	履修単位	2								4													佐々木 正明	
専門	選択	一般科学演習 III	0020	履修単位	2								4													鈴木 順	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 I
科目基礎情報					
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	4		
教科書/教材	「大学の日本語初級ともだち vol. 2」 (凡人社), 「留学生のための漢字の教科書 初級300 [改訂版]」 (国書刊行会), 「科学技術基礎日本語: 留学生・技術研修生のための使える日本語」 (凡人社)				
担当教員	武田 拓, 梅木 俊輔				
到達目標					
日本語初級後半レベルの学習者 (CEFR/日本語教育スタンダードA2.2相当, 日本語能力試験N4相当) が、日常生活面と学業面の両者において、日々繰り返されるパターン化された場面に加え、パターンから外れた予期していない場面で、文レベルのコミュニケーションが適切に行えるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
日本語で読む	身近な話題を中心とする単文を適切に読むことができる。	身近な話題を中心とする単文をある程度適切に読むことができる。	身近な話題を中心とする単文を適切に読むことができない。		
日本語で聞く	身近な話題を中心とする単文を適切に聞くことができる。	身近な話題を中心とする単文をある程度適切に聞くことができる。	身近な話題を中心とする単文を適切に聞くことができない。		
日本語で書く	身近な話題を中心とする単文を適切に書くことができる。	身近な話題を中心とする単文をある程度適切に書くことができる。	身近な話題を中心とする単文を適切に書くことができない。		
日本語で話す	身近な話題を中心に単文レベルのやりとりができる。	身近な話題を中心に単文レベルのやりとりがある程度できる。	身近な話題を中心に単文レベルのやりとりができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	寮生活や学校の授業等、身近な話題について、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を中心に行う。				
授業の進め方・方法	基本的に教科書に沿って進める。また、教室内で学んだことをもとに、友達・先輩・後輩・教員・職員といった教室外の人々と上手く関わっていくための課題も行う。授業では課題を毎回指示するので、次回授業までに行ってくること。 「事前学習」: 次回の授業の内容、テキストの内容を確認しておくこと。 「事後学習」: 授業後の復習を毎回必ず行うこと。				
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	「大学の日本語初級ともだち vol. 2」 1 3 課 国の習慣 学習項目: 1. Vてもいいです, 2. {A-くては/A-では/Nでは} いけません, 3. {V/A-く/A-で/Nで} なければなりません, 4. {V/A-く/A-で/Nで} なくてもいいです, 5. NはVことです, 6. Vことは {A} です 「留学生のための漢字の教科書 初級300 [改訂版]」 1 課 (1-20) 1 4 課 私ができること 学習項目: 1. Nができます, NをVことができます, 2. NがV (Potential Form), 3. Vようになりました, 4. (もし) {Vたら/A-かったら/A-だったら/Nだったら}、~, (もし) {V/A-く/A-で/Nで} なかったら、~, 5. V1たら、V2	1. 許可を求める/与える/断ることができる 2. 国の規則について簡単な日本語で聞き合うことができる 3. 趣味や将来の希望について聞き合うことができる 4. 日本の習慣についての説明文を読んで理解できる 5. 日本と自国の習慣を比較することができる 1. スポーツ、外国語、料理、車の運転ができるかどうか、聞き合うことができる 2. ある場所で何ができるか述べることができる 3. 「もし、Vたらどうしますか」を使って聞き合うことができる	
		3週	1 5 課 道を聞く 学習項目: 1. NをV/NがV, 2. NがVています, 3. Nが {見えます/聞こえます}, 4. {におい/味/音} がします, 5. [Place] をV (歩きます), 6. <Reason>。それで、<Result>, 7. {A-く/A-に/Nに} します, 8. {A-く/A-に} V 「留学生のための漢字の教科書 初級300 [改訂版]」 2 課 (21-40) 1 6 課 私の町 学習項目: 1. N1はN2が~, 2. {V/A/A/N} (Plain Form) んです, 3. {Vた/Vない} ほうがいいです, 4. N1はN2より~, 5. N1とN2 (と) ではどちら (のほう) が~のほうが~/どちらも~, 6. N1はN2ほど+Neg., 7. ~ではNがいちばん~	1. 自国の食べ物や料理の味について述べるができる 2. 道の行き方を聞き合うことができる 1. 友達を誘うことができる—理由を述べて断ることができる 2. 病気の症状を聞いてアドバイスすることができる 3. 二つを比較して、好きなのはどちらかを聞き合うことができる 4. 一番好きなもの/ことを聞き合うことができる 5. 東京と自分の町を比べることができる 6. 「私の町」を聞いて理解できる。「私の町」というテーマで作文を書き、発表できる	

2ndQ	4週	<p>17課 日本でびっくりしたこと 学習項目：1. {V/A-い/A-だ/Nだ}と、～、2. Vたことがあります、3. V1ながら、V2、4. N1と(いうの)は{N2の/V}ことです、5. {V/A}すきます、6. {V/A/N} (Plain Form) のはNです 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」3課 (41-60)</p> <p>18課 将来の計画 学習項目：1. Vら/よう (Volitional Form)とっています、2. {V/Vない} つもりです、3. {V/Nの} ためにV2、4. V1でV2/V1ないでV2、5. (たとえば) N1のようなN2、(たとえば) Nのように～、6. (まるで) Nのようです、(まるで) Nのように～/N1のようなN2</p>	<p>1. 道の行き方を聞き合うことができる 2. 日本文化に関する経験の有無を聞き合うことができる 3. 「日本でびっくりしたこと」について作文を書き、発表できる</p> <p>1. 日本の食べ物や店について、知っているかどうか聞き、誘うことができる 2. 将来の計画を述べるができる 3. 日本で生活したり、漢字を覚えたりするために、どんなことをしているか聞き合うことができる 4. 将来、どんな人になりたいか、どんな町に住みたいかについて発表できる 5. 比喩表現を比較できる</p>
	5週	<p>19課 アドバイス 学習項目：1. {Vば/A-ければ/A-なら(ば)/Nなら(ば)}、～、2. {Vても/A-くても/A-でも/Nでも}、～、3. Vなら、～、4. {V/A-い/A/N} でしょう、{Vない/A-く/A-では/Nでは} ないでしょう、5. {V/A/N} (Plain Form) かもしれません、6. N1も{V/A/N} (Plain Form) し、N2も～ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」4課 (61-80)</p> <p>20課 うれしかったこと 学習項目：1. {Vて/ないで} おきます、2. NがVてあります、3. {V1/V1ない} ようにV2、4. [Person] 1は[Person] 2 {に/から} Nをいただきます、[Person] 1は私にNをくださいます、P1はP2 {に/を} Vてあげます/さしあげます、P1は私 {に/を} Vてくれます/くださいます</p>	<p>1. 生活上のアドバイスをし合うことができる 2. 天気予報を聞くことができる 3. ある人物について、どんな人か述べるができる 4. 食事に行く店はどこがいいか決めて、その理由を述べることができる 5. 国のおすすめの料理、おみやげ、泊まる場所などについて聞き合うことができる</p> <p>1. 事前に準備しておくことが言える 2. 「Vてあります」を使って、ペアで相手の状態を聞き合うことができる 3. 「Vてくれました/くださいました」を使って話すことができる 4. 友達や知り合いにお礼のメールを書くことができる</p>
	6週	<p>21課 国の料理 学習項目：1. {Vて/A-くて/A-で/Nで}、～、2. {A/V} そうです、3. {Vの/VN} に{V (使います)/A (必要です)}、4. Vてしまいます、5. N1 {で/から} N2を作ります 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」5課 (81-100)</p> <p>22課 ことばと文字 学習項目：1. [Person] 1は[Person] 2にV (Passive Form)、2. [Person] 1は[Person] 2に(Nを)V (Passive Form)、3. [Person] 1はN(かばん)をV (Passive Form)、4. 雨にふられました、5. [Thing] {は/が} V (Passive Form)</p>	<p>1. びっくりしたことや、うれしいと思うことについて述べるができる 2. 災害についての会話を聞いて、理解できる 3. 友達の表情や態度から、何があったか聞き合うことができる 4. 何かをするのに、どのぐらい/いくらぐらいかかるか聞き合うことができる 5. 自国の料理の作り方を書き、発表できる</p> <p>1. 自分のいやな/困った経験について、受身形を使って述べるができる 2. 自国でどんな文字や言語が使われているか説明できる 3. 国で人気のある食べ物、飲み物、祭りなどについて聞き合うことができる</p>
	7週	<p>23課 友達から聞いたこと 学習項目：1. [Person] 1は[Person] 2をV (Causative Form)、2. [Person] 1は[Person] 2にNをV (Causative Form)、3. [Person] 1は[Person] 2をV(わらわせます)、4. N {によると/では}、{V/A/N} (Plain Form) そうです、5. {Nの/Vている} 間、～、{Nの/Vている} 間に、～ [Time] までに～ 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」6課 (101-120)</p> <p>24課 依頼 学習項目：1. Vてきました、Vていきます、2. {V/A/N} (Plain Form) ようです、3. {V/A/N} (Plain Form) のに、～、4. Vて {いただけませんか/くださいませんか}、5. V(さ) せて {ください/くださいませんか/いただけませんか}、6. 敬語表現 (=Honorific Expressions)</p>	<p>1. 親になったら、子どもに何を習わせたいか聞き合うことができる 2. どんなことをして親や先生を心配させたか述べることができる 3. 友達から聞いた話を他の人に伝えることができる 4. 日本の結婚式に着て行く服やあげるものについての会話が理解できる 5. 日本人に日本のことについての情報が本当かどうか聞くことができる 6. 「～間」「～間に」を使って今後の予定などを言うことができる</p> <p>1. グラフを見て、数の増減について述べるができる 2. 先生に敬語表現を使って、ていねいに依頼することができる 3. ていねいに許可を求めることができる 4. ていねいなメールを書くことができる 5. 謙譲語を使って自己紹介できる 6. 温泉旅館の説明を聞き、理解できる 7. 先生のお宅に電話がかけられる</p>
	8週	中間試験	
	9週	<p>「科学技術基礎日本語：留学生・技術研修生のための使える日本語」 第1課 数の読み方 学習項目：数字、桁の大きい数、少数、分数、倍数、べき数、累乗根 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」7課 (121-140)</p> <p>第2課 式の読み方 学習項目：四則演算、和、差、積、商、余り、イコール、等しい、大なり、小なり、記号、かっこ、かっことじ</p>	学習項目が運用できる：「端数の処理」、「数の種類」、「式の読み方」

	10週	<p>第3課 割合を表す表現・あいまいな表現 学習項目：比例、反比例、割合を表す表現（比／比率、対、割、%、倍）、あいまいな表現（約、およそ、ほぼ、程度、前後、ほど） 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 8課（141-160）</p> <p>第4課 図形（1）平面図形の名前 学習項目：点、線（直線、曲線、点線）、角度、直角、垂直、平行／水平、交点、頂点、辺、面、角、対角線、対頂角、接線、接点、中心、三角形、四角形、多角形、円</p>	学習項目が運用できる：「数学記号」、「平面図形の記述」
	11週	<p>第5課 図形（2）空間／立体図形の名前 学習項目：立方体、直方体、平行六面体、三角柱、四角柱、円柱、三角すい、四角すい、円すい、底面、球 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 9課（161-180）</p> <p>第6課 図形に関する表現 学習項目：長さ、縦、横、高さ、底辺、円周、中心、半径、直径、奥行、幅、底面、厚さ</p>	学習項目が運用できる：「立体図形の記述」
	12週	<p>第7課 単位 学習項目：長さ、大きさ／広さ（面積）、大きさ（体積）、重さ（質量）、圧力、角度、温度、熱量、時間 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 10課（181-200）</p> <p>第8課 位置を表す表現 学習項目：位置の表現（前、後ろ、右、左、横、隣、斜め、斜め前、斜め後ろ、まわり、上、下、真下、真横、手前、間）、面の名前（正面／前面、背面／後面、真正面、側面、上面、下面／底面、表面／表側、裏面／裏側）</p>	学習項目が運用できる：「量／程度の記述」、「位置の記述」
	13週	<p>第9課 手を動かす基本動作 学習項目：持つ、放す、握る、つかむ、つまむ、触れる／さわる、押さえる、もむ、こする、拭く、はらう、たたく、打つ、つつく 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 11課（201-220）</p> <p>第10課 ものを動かす基本動作（1） 学習項目：上げる、下げる、上下させる、押す、引く、引っ張る、立てる、倒す、傾ける、落とす、つるす、回す、振る</p>	学習項目が運用できる：「手に関する表現による記述」、「ものを動かす動作の記述（1）」
	14週	<p>第11課 ものを動かす基本動作（2） 学習項目：載せる、下ろす／降ろす、積む、合わせる、ずらす、重ねる、挟む、近付ける、離す、覆う、かぶせる、ふたをする、栓をする 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 12課（221-240）</p> <p>第12課 ものの形を変える基本動作（1） 学習項目：伸ばす、縮める、折る、たたむ、巻く、広げる、曲げる、折り曲げる、ねじる</p>	学習項目が運用できる：「ものを動かす動作の記述（2）」、「ものの形を変える動作の記述（1）」
	15週	<p>第13課 ものの形を変える基本動作（2） 学習項目：切る、切り取る、切り抜く、切断する、穴をあける、破る、裂く、ちぎる、削る、割る、砕く、折る、つぶす、すりつぶす 「留学生のための漢字の教科書 初級300[改訂版]」 12課（241-260）</p> <p>第14課 道具や手を使う動作（1） 学習項目：書く、描く、線を引く、塗る、消す、はる、はがす、留める、とじる、束ねる、巻く、通す、結ぶ、ほどく</p>	学習項目が運用できる：「ものの形を変える動作の記述（2）」、「道具や手を使う動作の記述（1）」、「文房具のいろいろ」
16週	期末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	発表・技術文書の作成	ポートフォリオ	合計
総合評価割合		50	30	20	100
基礎的能力		50	30	20	100

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科Ⅰ類 (留学生)		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版」(スリーエーネットワーク), 「日本語能力試験直前対策 N3 文字・語彙・文法」(国書刊行会)				
担当教員	武田 拓, 梅木 俊輔				
到達目標					
日本語中級前半レベルの学習者(CEFR/日本語教育スタンダードB1.2相当, 日本語能力試験N3相当)が、日常生活と学業の両方面において、日々繰り返されるパターン化した場面を中心に、文レベルのコミュニケーションができるだけでなく、談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションができるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
日本語で読む	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を読むことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度読むことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を読むことができない		
日本語で聞く	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を聞くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度聞くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を聞くことができない		
日本語で話す	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を話すことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度話すことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を話すことができない		
日本語で書く	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を書くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容をある程度書くことができる	パターン化した場面を中心に談話レベルでまとまりを持つ内容を書くことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	概要: パターン化した場面を中心に、談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションに必要な日本語の4技能(読む・聞く・話す・書く)を総合的に高める。				
授業の進め方・方法	授業では、教科書に沿いながら、テーマに関連がある、新聞・インターネットの記事、ニュース・ドキュメンタリーのテレビ番組等からの実例を用い進める。また、教室内で学んだことをもとに、友達・先輩・後輩・教員・職員といった教室外の人々と上手に関わっていくための課題も行う。授業では課題を毎回指示するので、次回授業までに行ってくる。 「事前学習」: 次回の授業の内容、テキストの内容を確認しておくこと。 「事後学習」: 授業後の復習を毎回必ず行うこと。				
注意点	・授業では予習と授業前課題を毎回指示するので、授業前に行ってくること。 ・開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 1課 音楽と音の効果 (前半) 学習項目: 1. カタカナ語, 2. ~のだろうか, 3. ~わけがない/~わけではない, 4. 名詞修飾節の「の」, 5. こそ, 6. より	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む: 「音楽と音の効果」 ・聞く: 「聴解タスクシート」	
		2週	1課 音楽と音の効果 (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す: 「音とリラックスについて話す」 ・書く: 「私の好きな歌」	
		3週	2課 いい数字・悪い数字 (前半) 学習項目: 1. ~というN, 2. ~ほど~はない, 3. ~からすると, 4. ~より, 5. 数字について読む・聞く	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む: 「いい数字・悪い数字」 ・聞く: 「聴解タスクシート」	
		4週	2課 いい数字・悪い数字 (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す: 「自国のいい数字・悪い数字について」 ・書く: 「好きな数字・特別な数字」	
		5週	3課 「面白い」日本 (前半) 学習項目: 1. 以来, 2. 何~も, 3. 文章と会話の中の「こ・そ・あ」, 4. ~ということだ, 5. までもない, 6. N1であろうと、N2であろうと, 7. (移動動詞) ている	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む: 「『面白い』日本」 ・聞く: 「聴解タスクシート」	
		6週	3課 「面白い」日本 (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す: 「電車の中の様子について」 ・書く: 「日本に来て分かったこと」	

4thQ	7週	4課 くしゃみ (前半) 学習項目： 1. とたん, 2. 複合動詞 (～だす・込む), 3. とともに, 4. 助詞+「の」, 5. ～の途中, 6. 擬音語・擬態語, 7. ～ことに	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む：「くしゃみ」 ・聞く：「聴解タスクシート」
	8週	4課 くしゃみ (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す：「動物の鳴き声をどう表すか話す」 ・書く：「くしゃみ」
	9週	5課 私の町 (前半) 学習項目： 1. つつある, 2. を中心に, 3. 「ところに」・「ところで」, 4. 意志動詞・無意志動詞の整理, 5. らしい・そうだ・ようだ 6. げ	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む：「私の町」 ・聞く：「聴解タスクシート」
	10週	5課 私の町 (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す：「好きな建物について話す」 ・書く：「メールの書き方：近況報告」
	11週	6課 この日に食べなきゃ、意味がない (前半) 学習項目： 1. 話し言葉, 2. にとって, 3. ずにはいられない, 4. ～としたら, 5. 「ことになる」・「ことにする」, 6. グラフの言葉	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む：「この日に食べなきゃ、意味がない」 ・聞く：「聴解タスクシート」
	12週	6課 この日に食べなきゃ、意味がない (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す：「自国の正月・特別な日に食べる料理」 ・書く：「正月料理・特別な料理」
	13週	7課 お相撲さんの世界 (前半) 学習項目： 1. だらけ・まみれ, 2. ～ないと、～ないからだ, 3. ～のたびに, 4. に加えて, 5. (数字) は, 6. ないように, 7. 動詞くる, 8. 接続詞・副詞の整理	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む：「お相撲さんの世界」 ・聞く：「聴解タスクシート」
	14週	7課 お相撲さんの世界 (後半)	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す：「どんな職業について関心があるか」 ・書く：「仕事のよい面・大変な面」
	15週	8課 第一印象 (前半) 学習項目： 1. にすぎない, 2. Nさえ～ば／～なら, 3. さえ・しか・こそ, 4. というものではない, 5. かねない, 6. ものの	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・読む：「第一印象」 ・聞く：「聴解タスクシート」
	16週	8課 第一印象 (後半) 期末試験	学習項目の用法を理解し、4技能において運用できる ・話す：「印象・自信があることの自己チェック」 ・書く：「人に会う時、気をつけていること」

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	ポートフォリオ	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	技術者の日本語 I
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	1年生留学生が対象となる科目 (日本語を除く) の使用教材				
担当教員	犬飼 亜有美				
到達目標					
教科学習に必要な日本語運用に馴染み、周囲のサポートを全面的に受けつつ、教科学習が効果的に進められるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
授業内容の理解	各教科の授業内容を理解し、一部母語や英語を用いつつ、学習内容を日本語で説明することができる		各教科の学習内容を理解し、母語や英語を用いて学習内容を説明することができる		各教科の学習内容が理解できておらず、母語や英語を用いても学習内容を説明することができない
日本語の読解・聴解	理工系科目で用いられる基本的な学習日本語が身につけており、授業内の指示、試験問題の指示及び教科書・テキストの要点が理解できる。		理工系科目で用いられる基本的な学習日本語が身につけており、授業内の指示及び試験問題の指示が理解できる。		理工系科目で用いられる基本的な学習日本語が身につけておらず、授業内の指示及び試験問題の指示が理解できない。
日本語の作文・発話	理工系科目の教科書・テキストで用いられる日本語の文章を自発的に算出することができる。		理工系科目で用いられる基本的な概念について、対応する日本語の語彙を発音・表記することができる。		理工系科目で用いられる基本的な概念について、対応する日本語の語彙を発音・表記することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、来日初期段階の留学生が主に理工系科目の基本的な用語・表現に慣れ、授業内容、授業内での指示及び試験での問を正確に理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする。				
授業の進め方・方法	各教科の教科書及びテキストを用いて、漢字・専門用語の意味・教科書の言い回し等を学び、授業の予習・復習を行う。また、宿題・課題や、授業内で解決できなかった問題等についても、解決のための時間を取り、学生が自律的に教科学習を行うためのサポートをする。事前学習として、次回の授業の内容、テキストの内容を確認しておくこと。事後学習として、本授業及び各教科の授業で確認した用語・表現を復習すること。定期的に専門用語を振り返る小テストを行う。				
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業計画を理解し、前期の取り組みに自分なりの見通しが立てられるようになる。	
		2週	教科書・テキストの語彙・表現を理解する①	各教科の教科書・テキストを読み、キーワードの読み方・意味を理解できるようになる。	
		3週	教科書・テキストの語彙・表現を理解する②	各教科の教科書・テキストを読み、キーワードの読み方・意味を理解できるようになる。	
		4週	教科書・テキストの語彙・表現を理解する③	各教科の教科書・テキストを読み、キーワードの読み方・意味を理解できるようになる。	
		5週	教科書・テキストの語彙・表現を理解する④	各教科の教科書・テキストを読み、キーワードの読み方・意味を理解できるようになる。	
		6週	試験問題の指示を理解する①	前期中間試験の過去問を参考に、試験でよく用いられる表現を理解し、適切に問題を解くことができるようになる。	
		7週	試験問題の指示を理解する②	前期中間試験の過去問を参考に、試験でよく用いられる表現を理解し、適切に問題を解くことができるようになる。	
		8週	2Qの授業内容の予習	各科目の2Qの授業内容の予習を行い、問題点を解決する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験の振り返り	前期中間試験の結果を客観的に分析し、期末試験に向けた改善策を考えることができる。	
		10週	教科書・テキストの内容を理解する①	各教科の教科書・テキストを読み、内容が理解できるようになる。	
		11週	教科書・テキストの内容を理解する②	各教科の教科書・テキストを読み、内容が理解できるようになる。	
		12週	教科書・テキストの内容を理解する③	各教科の教科書・テキストを読み、内容が理解できるようになる。	
		13週	文章問題演習	数学・物理の文章題で要求されていることを理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	
		14週	試験問題過去問演習①	問いを適切に理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	
		15週	試験問題過去問演習②	問いを適切に理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	

		16週	学習の振り返り・まとめ	前期の学習を振り返り、後期の学習方法に対して見通しを立てることができる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	小テスト	振り返りシート	期末レポート	合計	
総合評価割合	20	40	40	100	
基礎的能力	20	40	40	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	技術者の日本語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科Ⅰ類 (留学生)		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	1年生留学生が対象となる科目 (日本語を除く) の使用教材				
担当教員	犬飼 亜有美				
到達目標					
教科学習に必要な日本語運用に馴染み、周囲のサポートをある程度受けつつ、教科学習が効果的に進められるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
授業内容の理解	各教科の学習内容を理解し、一部母語や英語を用いつつ、学習内容を日本語で説明することができる		各教科の学習内容を理解し、母語や英語を用いて学習内容を説明することができる		各教科の学習内容が理解できておらず、母語や英語を用いても学習内容を説明することができない
日本語の読解・聴解	理工系科目で用いられる基本的な学習日本語が身につけており、教科書・テキストの内容を理解及び授業内容の記述ができる		理工系科目で用いられる基本的な学習日本語が身につけており、ある程度教科書・テキストの内容の理解及び授業内容の記述ができる		理工系科目で用いられる基本的な学習日本語が身につけておらず、教科書・テキストの内容が理解できない
日本語の作文・発話	理工系科目の教科書・テキストで用いられる日本語の文章を自発的に算出することができる。		理工系科目で用いられる基本的な概念について、対応する日本語の語彙を発音・表記することができる。		理工系科目で用いられる基本的な概念について、対応する日本語の語彙を発音・表記することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、来日1年未満の留学生が、理工系科目で用いられる語彙・表現を正確に理解し、学習内容を自らの言葉で説明できるようになることを目標とする。				
授業の進め方・方法	理工系科目の一週間の授業を振り返り、各教科の授業内容と新出語彙を振り返りシートに記入し、授業内で学習したことを口頭で説明する活動を行う。また、宿題・課題や、授業内で解決できなかった問題等についても、解決のための時間を取り、学生が自律的に教科学習を行うためのサポートをする。 事前学習として、次回の授業の内容、テキストの内容を確認しておくこと。 事後学習として、本授業及び各教科の授業で確認した用語・表現を復習すること。				
注意点	開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	前期期末試験振り返り	前期期末試験の結果を客観的に分析し、後期中間試験に向けた改善策を考えることができる。	
		2週	授業内容を振り返り、要点をまとめる①	教科書・テキスト・ノート等をもとに授業内容を振り返り、理解したこと及びわからなかったことをまとめることができる	
		3週	授業内容を振り返り、要点をまとめる②	教科書・テキスト・ノート等をもとに授業内容を振り返り、理解したこと及びわからなかったことをまとめることができる	
		4週	授業内容を振り返り、要点をまとめる③	教科書・テキスト・ノート等をもとに授業内容を振り返り、理解したこと及びわからなかったことをまとめることができる	
		5週	授業内容を振り返り、要点をまとめる④	教科書・テキスト・ノート等をもとに授業内容を振り返り、理解したこと及びわからなかったことをまとめることができる	
		6週	後期中間試験対策①	問いを適切に理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	
		7週	後期中間試験対策②	問いを適切に理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	
		8週	高専の入試問題を解く	数学の基本的な用語を理解し、初見の問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	後期中間試験振り返り	後期中間試験の結果を客観的に分析し、期末試験に向けた改善策を考えることができる。	
		10週	授業内容の要点を説明する①	学習内容や自分の理解状況について、工夫しながら相手に伝えることができるようになる。	
		11週	授業内容の要点を説明する②	学習内容や自分の理解状況について、工夫しながら相手に伝えることができるようになる。	
		12週	授業内容の要点を説明する③	学習内容や自分の理解状況について、工夫しながら相手に伝えることができるようになる。	
		13週	授業内容の要点を説明する④	学習内容や自分の理解状況について、工夫しながら相手に伝えることができるようになる。	
		14週	後期期末試験対策①	問いを適切に理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	
		15週	後期期末試験対策②	問いを適切に理解し、正確に問題を解くことができるようになる。	

		16週	学習の振り返り・まとめ	1年間の学習を振り返り、2年生の学習に対して見通しを立てることができるようになる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		振り返りシート	期末レポート	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本の社会と文化 I
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	初級からの日本語スピーチ (国際交流基金関西国際センター、2018)、自作資料。				
担当教員	朱 琳				
到達目標					
<p>1 講義を通して、日本の文化、生活様式、社会の構造や性質、日本人の物の考え方について大まかな理解ができるようになる。</p> <p>2 特定の話題についてまとめた発表ができるようになり、日本語で母国の文化・社会に関する内容を紹介できる。</p> <p>3 特定の話題に関するスピーチを準備するプロセスにおいて、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」4技能を磨き、日本語を応用する能力を身につける。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
日本文化に関する基礎知識	日本の文化と社会に関する基本的な事柄がよく理解できる。		日本の文化と社会に関する基本的な事柄がある程度理解できる。		日本の文化と社会に関する基本的な事柄がまったく理解していない。
日本語応用能力	自然な日本語で母国の文化を紹介することができる。ジェスチャーなどを活用しながら、流暢にスピーチすることができる。		日本語で母国の文化を紹介することができる。まとまりのあるスピーチをすることができる。		日本語で母国の文化を紹介することができない。
異文化理解	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができる。		日本文化と自文化の違いを理解しようとし、グローバルな視点で物事を考えようとする姿勢がみられる。		日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で、物事を考えることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本の社会と文化 Iは、初級段階の留学生を対象とし、できるだけ早く日本文化に順応することを目標とする。特に、日本語の応用力と日本文化に対する理解とのバランスを考えつつ、国際的な視野の涵養を重要視する。授業はおおむね二つのパートが含まれ、一つは、日本語の応用力を伸びるためのスピーチ訓練、もう一つは、日本の文化、生活様式、社会の構造や性質、日本人の物の考え方を学ぶための講義である。受講者はこの授業を通して、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」4技能を身につけ、国際的な視点から自国文化と日本文化を深く理解する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方：基本的には、「語彙・表現の学び→発表→発表のフィードバック→講義」という流れで授業を進めていくが、自作資料・新聞記事・ビデオ等の副教材を活用すると共に、文化理解をテーマとしたインタビュー・発表などのプロジェクトをふんだんに取り入れる。受講者は、語学力を上達すると同時に、生の日本文化に触れつつ、自文化を振り返る。 ・ 授業内容：前期の授業では、まず「年中行事」、「国の概況」、「観光」、「歴史」、「経済産業」などの話題を取り上げ、基本的なスピーチを自力で構成できるように練習を繰り返す。後期の授業では、より複雑なスピーチを構成できるよう、「習慣」、「人間関係」、「社会問題」などの話題を通して、「対比」、「因果関係」、「分析」などの表現法を身につける。 ・ 事前学習：語彙・表現の予習、スピーチ原稿の作成 ・ 事後学習：語彙・表現の復習、スピーチ原稿の修正 ・ 小テスト・期末試験あり。 				
注意点	ほかの参考資料、自作資料などを随時に配布する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の内容、進め方、授業評価などを知る。	
		2週	日本語で仙台高専を紹介する	日本語で簡単な発想をできる。	
		3週	高専での日本語	高専での学校生活に使う日本語を学ぶ。	
		4週	まつり	まつりと年中行事に関する表現を学ぶ。	
		5週	まつり	自国のまつりについて調べて、発表する。	
		6週	まつり	日本のまつりについて学ぶ。	
		7週	地理、民族、宗教	地理、民族、宗教に関する表現を学ぶ。	
		8週	地理、民族、宗教	自国の地理、民族、宗教について調べて、発表する。	
	2ndQ	9週	地理、民族、宗教	日本の地理、民族、宗教について学ぶ。	
		10週	復習、小テスト		
		11週	観光	旅行用語、観光に関する表現を学ぶ。	
		12週	観光	自国の観光資源を調べて、紹介する。	
		13週	観光	日本の観光地や交通機関の利用法について学ぶ。	
		14週	復習とまとめ	以上の内容を振り返る。	
		15週	期末試験		
		16週	試験返却	試験の振り返り	
後期	3rdQ	1週	お弁当の話	日本のお弁当の歴史を学ぶ。	
		2週	お弁当の話	日本のさまざまなお弁当を調べて、好きな弁当について発表する。	
		3週	歴史	歴史に関する表現を学ぶ。	

4thQ	4週	歴史	自国の歴史について調べて、紹介する。
	5週	歴史	日本の歴史と文化との関係を学ぶ。
	6週	日本の歴史と文化について動画鑑賞	動画を通して、日本の歴史と文化を理解し、議論する。
	7週	産業と貿易	産業、貿易についての表現を学ぶ。
	8週	産業と貿易	自国の産業、貿易について調べて、紹介する。
	9週	産業と貿易	日本の産業と貿易について学ぶ。
	10週	習慣の違い	さまざまな習慣についての表現を学ぶ。 日本人学生にインタビューする。
	11週	習慣の違い	インタビューの結果に基づき、発表する。
	12週	出来事を語る	過去の出来事を話す時の表現を学ぶ。
	13週	出来事を語る	日本に来てからの生活を振り返り、自分の体験を紹介する。
	14週	復習とまとめ	以上の内容を振り返る。
	15週	期末評価	期末試験
	16週	試験返却	試験の振り返り

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	ポートフォリオ（作文）	合計	
総合評価割合	40	30	30	100	
基礎的能力	20	20	20	60	
専門的能力	20	10	10	40	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	『話す・書くにつながる! 日本語読解 (中級)』 (アルク、2016)、『話す・書くにつながる! 日本語読解 (中上級)』 (アルク、2016)、『日本語で考えたいくなる 科学の問い』 (凡人社、2022)、ほか適宜資料配布				
担当教員	朱 琳				
到達目標					
①日本語能力試験N2、またはそれ以上の語彙、文型を習得し、応用できるようになる。 ②日常生活面と学業面の両者において、日々繰り返されるパターンから外れた予期していない場面で、相手との社会的関係や話題に注意を払いつつ、それにふさわしい談話レベルでまとまりを持つ内容のコミュニケーションができるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 読む能力	問題なく新聞、雑誌、一般向けの書籍などを読み、内容を理解することができる。		自力で調べながら、新聞、一般向けの書籍などを読み、内容を理解することができる。		新聞、一般向けの書籍などを読まず、調べる方法も分からない。
評価項目2 聞く能力	授業、日常生活、テレビ番組などの場面で9割以上の内容が聞き取ることができる。		授業、日常生活、テレビ番組などの場面で7割以上の内容が聞き取ることができる。		授業、日常生活、テレビ番組などの場面で聞き取れた内容が半分以下。
評価項目3 話す能力	授業、日常生活などの場面で自分の言いたいことを相手に理解できるように伝え、予想外の展開でも返答することができる。		若干不自然な表現があっても、授業で取り上げられた話題、日常生活などの場面で自分の言いたいことを相手に伝えることができる。		授業で取り上げられた話題、日常生活などの場面で自分の言いたいことを相手にまったく伝わらない。
評価科目4 書く能力	与えられたテーマについて、たとえそれは自分のよく知らない分野だとしても、自力で情報収集し、まとまりのある文章を書くことができる。		与えられたテーマについて、自力でまとまりのある文章を書くことができる。		与えられたテーマについて、まとまりのある文章を書けない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目は教員が様々な教科書から教材をピックアップし、使っているうちに日本語能力を伸ばすアクティブラーニングの授業である。読解の訓練をベースとして、文章の内容をまとめる力、それに関する話題を展開し、自分の意見・体験を述べる力などを養う。まとまりを持つ内容のコミュニケーションに必要な日本語の4技能(読む・聞く・話す・書く)について、様々な相手・話題に対する応用力を高めることを目標とする。				
授業の進め方・方法	授業では、様々なテーマの教材を活用し、「教材の精読」→「読解トレーニング」→「話題の展開」の流れで進める。「教材の精読」では、語彙と文型を学び、「読解トレーニング」では、教材から得られた情報をまとめる作業を行う。さらに「話題の展開」では、関連するテーマを自ら考え、調べ、情報収集したうえで、自分のものとして日本語で発信できるように練習する。 ・事前学習: 事前に配った資料を通読し、知らない単語を調べること。 ・事後学習: 毎週小テストを行うので、復習しておくこと。 随時出した作文などの課題を完成すること。 N2向けの練習問題を完成すること。				
注意点	・開講後、学習者の日本語力に応じ、授業計画・内容・使用教科書を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		実力テストを行う。授業の内容、進め方、注意点、評価方法などについて理解できる。
		2週	第1課 意見が対立したとき: 意見の違いを理解する力		自分と違う意見を受け入れるための言葉を知ることができる。意見が対立したときに、話し合いを進める方法を身につける。
		3週	第2課 出来事を語る: 人生で意味をもつ体験		文学作品を読み、作者の考え方を把握する。自分の体験を他者に伝えることができる。
		4週	第3課 情報を提示する: ジェンダーを考える①		女性の社会進出に関する新聞記事を読み、社会問題に関する情報収集力を身につける。
		5週	第3課 情報を提示する: ジェンダーを考える②		このテーマについて、自国の状況を調べ、情報を提示しながら簡単に分析することができる。
		6週	第4課 因果関係を示す: 日本の公害問題の歴史①		公害問題に関する記事を読み、作者のあげている原因と根拠を理解する。
		7週	第4課 因果関係を示す: 日本の公害問題の歴史②		公害問題について調べ、自分の意見を述べるができる。
		8週	まとめと復習		
	2ndQ	9週	第5課 評価・批判する: IT技術と人間社会①		ロボット開発に関する新聞記事を読み、紹介されたロボットの機能、問題を理解することができる。
		10週	第5課 評価・批判する: IT技術と人間社会②		最近どのようなロボットが開発されたかを調べ、今後どのようなロボットの開発が望ましいか、自分の考えを述べるができる。

	11週	第6課 相手の意見を確認する、ルールを提案する、意見をまとめる：集団意識を考える①	意	短い紹介文を読み、実験の手法を通してその目的を推測することができる。 論説文に使える表現を知ることができる。
	12週	第6課 相手の意見を確認する、ルールを提案する、意見をまとめる：集団意識を考える②	意	集団意識に関する論説文を読み、長文の文章構成を理解することができる。
	13週	第6課 相手の意見を確認する、ルールを提案する、意見をまとめる：集団意識を考える③	意	組織内で意見の対立が起きたとき、どのような対応法があるのか、議論を通して、建設的な意見を述べる ことができる。
	14週	まとめと復習		
	15週	期末試験		
	16週	試験返却・フィードバック		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合		40	40	20	100
基礎的能力		40	20	20	80
分野横断的能力		0	20	0	20

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	技術者の日本語Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「留学生のためのここが大切文章表現のルール」スリーエーネットワーク、「ここがポイント!レポート・論文を書くための日本語文法」くろしお出版、「新訂版留学生のための論理的な文章の書き方」スリーエーネットワーク				
担当教員	犬飼 亜有美				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科学習に必要なとなる日本語運用に馴染み、教科学習を自立的に進められるようになる。 ・レポート等の学術的な文章を作成するために必要な文法・表現を学び、論理的な文章を作成できるようになる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
各教科の学習内容の理解・説明	各教科の学習内容を理解し、日本語で正しく学習内容を説明することができる	各教科の学習内容を理解し、一部母語や英語を用いつつ学習内容を日本語で説明することができる	各教科の学習内容が理解できておらず、母語や英語を用いても学習内容を説明することができない		
文型・表現の運用	学習した文型・表現を適切に用いて意図を正確に伝える文章を作成することができる。	学習した文型・表現を用いてある程度意図を伝える文章を作成することができる。	学習した文型・表現を適切に使用することができず、意図を正確に伝える文章を作成することができない。		
学術的な文章の作成	文同士を適切に接続し、論理的で意味が通ったまとまりのある文章を作成することができる	意味が通ったまとまりのある文章を作成することができる	意味が通った文章を作成することができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目では、各教科の授業内で用いられる日本語及び学習内容を振り返り、知識を整理するとともに、学術的な文章作成の基礎となる文法及び表現方法を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、各教科で学習した内容を理解し、うち指定した科目についてその学習内容を説明する文章(200~300字程度)を作成してくること(授業前課題)。 ・授業では、作文の内容・文法にフィードバックを行う「添削」、学術的・論理的な文章を作成する際に必要な文法や表現を学習する「文法・表現学習」を行う。 ・事後学習として、授業で学んだ文法や表現を振り返り、次回授業の作文で使用できるようにしておくこと。 ・前期、後期ともに中間確認テストと期末確認テストを実施する。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前課題を毎回指示するので、必ず授業前に行ってくること。 ・開講後、学生の日本語力に応じ、授業計画・内容を変更することがある。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画および授業の進め方を理解し、前期の取り組みに見通しを立てられるようになる。	
		2週	話し言葉と書き言葉	話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学術的な文章にふさわしい言葉遣いを選択することができるようになる。	
		3週	助詞の使い分け①	「は/が」、「を/に/で」の使い分けを理解し、文章中で適切に選択することができるようになる。	
		4週	助詞の使い分け②	「によると/によって」「に対して/に関して」等の助詞相当語の使い分けを理解し、文章中で適切に選択することができるようになる。	
		5週	自動詞・他動詞・受身・使役①	他動詞/使役形と自動詞/受身形の使い分けを学び、視点が統一された文章を作成することができるようになる。	
		6週	自動詞・他動詞・受身・使役②	他動詞/使役形と自動詞/受身形が使用される場面について知り、適切に使用することができるようになる。	
		7週	中間確認テスト/前期中間試験対策	2~6週の学習内容について確認テストを行う。一般科目/専門科目の中間試験対策を行う。	
		8週	前期中間試験振り返り	一般科目/専門科目の前期中間試験の結果を振り返り、反省と期末試験に向けた改善策を考える。	
	2ndQ	9週	呼応①	副詞・疑問詞と文末との呼応関係を理解し、文章中で適切に使用できるようになる。	
		10週	呼応②	主語と文末との呼応関係を理解し、文章中で適切に使用できるようになる。	
		11週	指示詞の使い分け①	「こ/そ/あ」の使い分けを理解し、文章中で適切に使用できるようになる。	
		12週	指示詞の使い分け②	指示詞を用いた定型表現を学び、文章中で適切に使用できるようになる。	
		13週	接続表現①	順接・逆接・並列の接続詞の種類を学び、文章中で適切に使用できるようになる。	
		14週	接続表現②	換言・まとめの接続詞の種類を学び、文章中で適切に使用できるようになる。	

		15週	期末確認テスト／前期期末試験対策	前期の学習内容について確認テストを行う。一般科目／専門科目の前期期末試験の対策を行う。
		16週	学習の振り返りとフィードバック	
後期	3rdQ	1週	前期期末試験振り返り	一般科目／専門科目の前期期末試験の結果を振り返り、反省と後期中間試験に向けた改善策を考える。
		2週	仕組みの説明	物事や事柄の仕組みを説明する文章に使われる文型・表現を学び、文章中で適切に使用できるようになる。
		3週	歴史的な経過①	歴史的な経過を説明する文章に使われる文型・表現を学び、文章全体の構造を組み立てられるようになる。
		4週	歴史的な経過②	歴史的な経過を説明する文章を作成し、筋の通った説明ができるようになる。
		5週	分類①	分類に使われる文型・表現を学び、文章全体の構造を組み立てられるようになる。
		6週	分類②	分類を提示する文章を作成し、筋の通った説明ができるようになる。
		7週	中間確認テスト／後期中間試験対策	2～6週の学習内容について確認テストを行う。一般科目／専門科目の中間試験対策を行う。
		8週	後期中間試験振り返り	一般科目／専門科目の前期中間試験の結果を振り返り、反省と期末試験に向けた改善策を考える。
	4thQ	9週	定義	定義に使われる文型・表現を学び、文章中で適切に使用できるようになる。
		10週	比較・対照①	比較・対照に使われる文型・表現を学び、文章全体の構造を組み立てられるようになる。
		11週	比較・対照②	比較・対照を行う文章を作成し、筋の通った説明ができるようになる。
		12週	因果関係①	因果関係を示す際に使われる文型・表現を学び、文章全体の構造を組み立てられるようになる。
		13週	因果関係②	因果関係を説明する文章を作成し、筋の通った説明ができるようになる。
		14週	意見を述べる表現	意見文に使われる文型・表現を学び、説得力のある意見文を作成できるようになる。
		15週	期末確認テスト／後期期末試験対策	後期の学習内容について確認テストを行う。一般科目／専門科目の後期期末試験の対策を行う。
		16週	学習の振り返りとフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		中間確認テスト（前期・後期）	期末確認テスト（前期・後期）	提出作文	合計
総合評価割合		20	40	40	100
基礎的能力		20	40	40	100

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本の社会と文化Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0008	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	総合工学科Ⅰ類 (留学生)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	クローズアップ日本事情15、地図とデータでよくわかる日本地理 ほか				
担当教員	犬飼 亜有美, 梅木 俊輔				
到達目標					
1 日本の地理、文化、社会の構造や社会問題について大まかな理解ができ、発表できるようになる。 2 自文化との比較分析を通して、グローバルな視点を養いつつ、第二言語としての日本語の学習を通して新たに芽生える日本語者アイデンティティと自文化アイデンティティの調和に臨む。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
ディスカッション	トピックに関して自分の意見を正確に伝えることができる。	トピックに関して自分の意見を伝えようとする姿勢がある。	トピックに関して自分の意見を伝える意欲がない。		
発表・作文	文化・社会に関する語彙が身につけており、テーマに沿った創造的な発表・作文ができる。	文化・社会に関する基本的な語彙がある程度身につけており、テーマに沿った発表・作文ができる。	文化・社会に関する基本的な語彙が身につけておらず、テーマに沿った発表・作文ができない		
異文化理解	日本文化と自文化を比較・分析し、グローバルな視点で物事を考えることができる。	日本文化と自文化の違いを理解しようとし、グローバルな視点で物事を考えようとする姿勢がある。	日本文化と自文化の違いを客観的に捉えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、日本で生活していく上で知っておくべき社会的・文化的な知識・習慣を理解するとともに、自国での様子・状況について日本と比較しながら説明できるようにすることを目標とする。				
授業の進め方・方法	教材に加え、新聞・インターネット記事・動画などの生教材を活用するほか、文化理解をテーマとしたインタビューや発表などのプロジェクトを取り入れる。また、周囲との対話を通じた学びを重視し、アクティブ・ラーニングを意識した様々な活動を提供していく。 事前学習として、授業前課題を指示する回があるので必ず授業前に行ってくること。 事後学習として、授業で学んだ語彙や表現を振り返り、定着をはかること。 前期、後期ともに中間プレゼンテーションと期末プレゼンテーションを行う。また、前期・後期末にレポート課題を課す。				
注意点	開講後、学生の日本語力に応じて学習内容を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・日常生活の中のルール	1年間の授業計画について理解し、自分なりの見通しを立てることができる	
		2週	地形と気候①	日本の地形、気候について大まかに理解し、自国や他国と比較し、発表できる。	
		3週	地形と気候②	日本の地形、気候について大まかに理解し、自国や他国と比較し、発表できる。	
		4週	災害と防災①	日本でよく起こる災害について大まかに理解し、自国や他国と比較し、発表できる。	
		5週	災害と防災②	日本でよく起こる災害について大まかに理解し、自国や他国と比較し、発表できる。	
		6週	観光と交通①	日本の交通システムと観光の特徴について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。	
		7週	観光と交通②	日本の交通システムと観光の特徴について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。	
		8週	中間評価	プレゼンテーション	
	2ndQ	9週	地域の伝統料理・工芸①	宮城県の伝統料理および伝統料理と地理的環境のかかわりについて大まかに理解し、自国と比較し発表できる。	
		10週	地域の伝統料理・工芸②	宮城県の伝統料理および伝統料理と地理的環境のかかわりについて大まかに理解し、自国と比較し発表できる。	
		11週	祝祭日と年中行事①	季節に即した日本の年間行事を理解し、日本と自文化の年間行事を比較し、発表できる。	
		12週	祝祭日と年中行事②	季節に即した日本の年間行事を理解し、日本と自文化の年間行事を比較し、発表できる。	
		13週	昔話と思想①	日本の有名な昔話とその教訓について知り、自国と比較し発表できる。	
		14週	昔話と思想②	日本の有名な昔話とその教訓について知り、自国と比較し発表できる。	
		15週	期末評価	プレゼンテーション	
		16週	学習の振り返りとフィードバック		
後期	3rdQ	1週	前期授業の振り返り		

4thQ	2週	歴史と偉人①	日本の歴史における時代区分と有名な偉人について概要を知り、自国と比較し発表できる。
	3週	歴史と偉人②	日本の歴史における時代区分と有名な偉人について概要を知り、自国と比較し発表できる。
	4週	教育と就職①	日本の教育システムや諸問題について理解し、自国と比較し発表できる。
	5週	教育と就職②	日本の教育システムや諸問題について理解し、自国と比較し発表できる。
	6週	信仰と生活①	日本の生活の中に浸透している信仰について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。
	7週	信仰と生活②	日本の生活の中に浸透している信仰について大まかに理解し、自国と比較し発表できる。
	8週	中間評価	プレゼンテーション
	9週	健康と福祉①	日本の保険・年金の仕組みや諸問題を理解し、自国と比較し発表できる。
	10週	健康と福祉②	日本の保険・年金の仕組みや諸問題を理解し、自国と比較し発表できる。
	11週	産業と経済①	日本の産業構造と経済の状況について理解し、自国と比較し発表できる。
	12週	産業と経済②	日本の産業構造と経済の状況について理解し、自国と比較し発表できる。
	13週	政治と憲法①	日本の政治および憲法の特徴を理解し、自国と比較し発表できる。
	14週	政治と憲法②	日本の政治および憲法の特徴を理解し、自国と比較し発表できる。
	15週	期末評価	プレゼンテーション
	16週	学習の振り返りとフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	プレゼンテーション	ディスカッション	レポート	合計	
総合評価割合	60	20	20	100	
基礎的能力	30	10	10	50	
専門的能力	30	10	10	50	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語IV
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	『日本語学習者のための読解厳選テーマ10 [上級]』 凡人社、『日本語で考えたい科学の問い』 (上・下) 凡人社、『日本がわかる、日本語がわかる』 凡人社 ほか				
担当教員	犬飼 亜有美				
到達目標					
1 論理的文章・文学などの幅広いジャンルの読解活動を通して、中上級レベル (JLPT N2) 以上の語彙・文型及び読解能力を身につける。 2 日常のコミュニケーション場面における表現及び語用論的知識を養い、必要な場面で適切にアウトプットできるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
コミュニケーション	自分と相手の関係性や場面に合った表現を適切に用いて、円滑なコミュニケーションを遂行することができる。	自分が相手に伝えたい内容を表現でき、意図したコミュニケーションを遂行することができる。	自分が相手に伝えたい内容を適切に表現できず、意図したとおりのコミュニケーションが遂行できない。		
テキスト理解	テキストで用いられている語彙や文型が身につけており、テキストの内容が正確に理解できる。	テキストで用いられている語彙や文型がある程度身につけており、テキストの内容がほとんど理解できる。	テキストで用いられる語彙や文型が身につけておらず、テキストの内容が理解できない。		
アウトプット	与えられたテーマに対して、自分が持っている日本語の知識を駆使して自らの考えや意見を正確に述べるることができる。	与えられたテーマに対して、自分が持っている日本語の知識を駆使して自らの考えや意見を述べようとする姿勢がある。	与えられたテーマに対して、自らの考えや意見を述べることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、日本で生活していくにあたって必要な言語的知識を身につけ、身につけた言語的知識を実生活で適切に運用する能力を身につけることを目標とする。				
授業の進め方・方法	週2回の授業のうち、1回を読解、もう1回を会話にあてて進める。 事前学習として、会話の回で指示する授業前課題に取り組むこと。 読解の授業では、テキストの語彙、表現、内容の確認をし、内容に関して意見交換を行う。会話の授業では、授業前課題をもとに様々なコミュニケーション場面における適切な表現について考えとともに、実際のコミュニケーションで用いられる口語表現を学ぶ。 事後学習として、授業で学んだ表現や文法を振り返り、次回授業までに身につけておくこと。 学期末に筆記試験を行う。				
注意点	授業前課題を指示するので、必ず授業前に行ってくること。 開講後、学生の日本語力に応じて授業内容を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス/説明書を読む	授業計画を理解し、授業に対する自分なりの見通しが立てられるようになる/説明書を読み、書かれている通りの操作ができる	
		2週	依頼する/読解: 生態系	相手との関係性や内容の重さに応じて、依頼する表現を使い分けられるようになる/テキストに対する自らの意見を述べるができる	
		3週	勧誘する/グラフを読む	相手との関係性に応じて、勧誘する表現を使い分けられるようになる/グラフを読み、グラフが示している事柄について適切に説明することができる	
		4週	許可を求める/エッセイ	相手との関係性や内容の重さに応じて、依頼する表現を使い分けられるようになる/テキストに対する自らの意見を述べるができる	
		5週	申し出る/お知らせ・広告を読む	相手との関係性に応じて、申し出る表現を使い分けられるようになる/案内文、通知、広告などを読み、書かれている内容を正確に理解することができる	
		6週	謝罪する/読解: 書評	相手との関係性に応じて、謝罪する表現を使い分けられるようになる/テキストに対する自らの意見を述べるができる	
		7週	相談・助言する/情報を読み取る	相手との関係性や内容の重さに応じて、相談・助言をする表現を使い分けられるようになる/アルバイト募集情報、賃貸情報、ホテル予約サイトなどを読み、情報を正確に理解することができる	
		8週	復習とまとめ	前半の内容の復習を行う	
	4thQ	9週	不満を伝える/読解: 日本語・日本文化	相手との関係性や内容の重さに応じて、不満を伝える表現を使い分けられるようになる/テキストに対する自らの意見を述べるができる	
		10週	情報提供する/新聞を読む	日常会話において、相手に情報提供する際の会話の流れを身につける/新聞記事を読み、簡潔な情報を正しく読み解くことができる	
		11週	体験談を話す/探求: ビジネスとテクノロジー①	日常会話において、自分が体験したことを効果的に相手に伝えられるようになる/テキストに対する自らの意見を述べるができる	

		12週	共感を示す・共感できない気持ちを示す／探求：ビジネスとテクノロジー②	日常会話において、相手に共感を示したり、共感できない気持ちを示したりできるようになる／テキストに対する自らの意見を述べることができる
		13週	相手の話を広げる／探求：心が持つバイアス①	日常会話において、相手の話を広げるような質問ができるようになる／テキストに対する自らの意見を述べるができる
		14週	話題を始める・変える・終える／探求：心が持つバイアス②	日常会話において、話題を始める・変える・終える表現を身につけ、使用できるようになる／テキストに対する自らの意見を述べるができる
		15週	共通の経験を話す／期末試験	日常会話において、相手と共通の経験を話す際のストラテジーを身につけ、使用できるようになる／期末試験
		16週	学習の振り返りとフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		期末試験	授業前課題	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語Ⅴ
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科Ⅰ類 (留学生)		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	①大学・大学院留学生の日本語 作文編 (アルク) ②大学・大学院留学生の日本語 読解編 (アルク) ③留学生のためのアカデミックジャパニーズ中上級 (スリーエーネットワーク) ④Intermediate Kanji Book (凡人社) ⑤新完全マスターN1語彙 (スリーエーネットワーク) ⑥テーマ別上級で学ぶ日本語改訂版 (研究社)				
担当教員	佐藤 和美, 池田 智子				
到達目標					
1. 有意義な留学生活を送るために、情報受信力 (聞く・読む) と発信力 (話す・書く) 両方のバランスのよいコミュニケーションができるようになる。 2. 漢字、語彙の一層の強化をはかり、適切な文章を書いたり、発話できるようになる。社説のような文を読み理解し、さらにそれに対する自分の考察も日本語でできるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
読む	未習の語彙が含まれる文章を類推を用いて読むことができる。	辞書を用いて文章を読むことが出来る。	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。		
聞く	まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返せば、まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテキストを聞いて全体から類推して情報を得ることが難しい。		
話す	身近な話題について、自分の考え・意見を述べる事が出来る。	こちらの手助けがあれば、身近な話題について、自分の考え・意見を述べる事が出来る。	自分の考え・意見を述べる事が難しい。		
書く	表現したい内容を適切な語彙を用いて書く事が出来る	表現したい内容を適切な語彙を用いて書く事がやや難しい。	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	高専生活に適応していくために必要な日本語力を養成する。教材には日本事情・日本文化・時事的話題・科学読み物など幅広い分野を取り上げ、実際の使われ方を重視した授業活動・課題を用いて進める。予備教育で学んだ日本語を基礎に、語彙・漢字・表現力を広げ、伸ばしながら4技能 (聞く・話す・読む・書く) のバランスの取れた日本語力を身につける。口頭表現 (会話・報告・意見発表・スピーチなど) 及び作文表現 (メール・手紙・レポート・一般作文など) の力を養い、専門科目履修効果を高めると共に、コミュニケーション能力の向上を目指す。				
授業の進め方・方法	授業はタスク活動・演習を中心に行うので積極的に参加することが求められる。(事前学習) ある程度分量のある日本語を読んだり聞いたりすることを通し、その中で使われる語彙・文法を身につける活動が授業の中心となるので、事前に内容に目を通し語彙などの確認をしておくことが望ましい。(事後学習) 授業後は小テストに備えての復習と毎回出されるテーマに基づいた作文の作成にあたること。				
注意点	開講後、学生の日本語能力を判断した上で、授業内容や教科書を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週 聴解：掃除 作文：表記の仕方、文体と書き言葉① 漢字：漢字の仲間 語彙：性格/人柄 教科書：コロンプスの卵	・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する ・文章作成に必要な基本事項の確認 (文字や記号の書き方、句読点の打ち方、文体) ・漢字の成り立ちを知る ・性格・人柄に関する語彙の強化 ・まとまった文の内容理解強化		
		2週 聴解：本屋 作文：文体と書き言葉② 漢字：反対語の漢字 語彙：性格/人柄 教科書：コロンプスの卵	・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する ・文章作成に必要な基本事項の確認 (文体と書き言葉) ・対になる漢字の強化 ・性格・人柄に関する語彙の強化 ・文法の強化		
		3週 聴解：体験プレゼント 作文：段落に分ける 漢字：漢語の動詞 (1) 語彙：人間関係/付き合い 教科書：コロンプスの卵	・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する ・文章作成に必要な基本事項の確認 (文章・段落内の構成) ・漢語の語構成を意識する ・人間関係に関する語彙強化 ・ニュースなどのリスニング力強化		
		4週 聴解：そば屋ののれん 作文：「は」と「が」 漢字：漢語の形容詞 語彙：人間関係/付き合い 教科書：コロンプスの卵	・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する ・文章作成に必要な基本事項の確認 (助詞の使い方) ・形容詞になる漢語を意識する ・人間関係に関する語彙強化 ・グラフなどのプレゼンテーション力強化		

2ndQ	5週	聴解：卵かけごはん 読解：睡眠時間－短眠と長眠 漢字：漢語の形容詞 語彙：日常生活 教科書：宇宙人のぼやき	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 定義を表す表現の習得 形容詞になる漢語を意識する 日常生活に関する語彙強化 まとまった文の内容理解強化
	6週	聴解：剣道 読解：日時計 漢字：同音の漢字 語彙：日常生活 教科書：宇宙人のぼやき	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 経過を表す表現、助詞相当語の習得 同音異義語の強化 日常生活に関する語彙強化 文法強化
	7週	聴解：落語 作文：テーマを述べる 漢字：同音の漢字 語彙：医療・健康 教科書：宇宙人のぼやき	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する テーマを示し、重要性を述べる 同音異義語の強化 医療・健康に関する語彙強化 ニュースを聞いて、内容を伝える練習と習得
	8週	聴解：そばをすする音 読解：研究者の二つのタイプ 漢字：漢語の語構成 語彙：医療・健康 教科書：宇宙人のぼやき	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 比較・対照の表現、指示語の習得 漢字の語構成を意識する 医療・健康に関する語彙の強化 プレゼンテーション力強化
	9週	聴解：将棋 作文：理由・経過を述べる 漢字：漢語の動詞（2） 語彙：芸術/スポーツ 教科書：エネルギー物語	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 理由、時間の経過を説明する 漢字の語構成を意識する 芸術・スポーツに関する語彙強化 まとまった文の内容理解強化
	10週	聴解：南極 読解：地球温暖化 漢字：漢語の動詞（2） 語彙：芸術・スポーツ 教科書：エネルギー物語	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 時を表す従属節、原因や理由を表す従属節の習得。 副詞的使われる漢字を意識する 芸術・スポーツに関する語彙強化 文法の強化
	11週	聴解：明治神宮の森 読解：風呂場の戸 漢字：漢字の音訓 語彙：教育 教科書：エネルギー物語	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 仮定条件や逆接を表す従属節、間接疑問の使い方の習得。 同音異義語の強化 教育に関する語彙強化 ニュースなどのリスニング力強化
	12週	聴解：虚偽の自白 作文：定義をする 漢字：漢字の音訓 語彙：教育 教科書：エネルギー物語	<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する 中心文、支持文を考えて書く 漢字の音訓の強化 教育に関する語彙強化 プレゼンテーション力強化
	13週	読解：手で数を表す 作文：判明していることを述べる 漢字：同訓の漢字 語彙：仕事 教科書：私のニュースの読み方	<ul style="list-style-type: none"> 様々な接続表現の確認、強化。 判明事項を述べ、意見を書く 漢字の音訓の強化 仕事に関する語彙強化 クリティカル・リーディング
	14週	読解：茶はどのようにして伝わったか 漢字：類義語の漢字 語彙：仕事 教科書：私のニュースの読み方	<ul style="list-style-type: none"> 様々な接続表現の習得。 仕事に関する語彙強化 副詞の強化 クリティカル・リーディング
	15週	試験	
	16週	答案返却とフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		期末試験・小テスト	課題作文・授業中の取り組み	合計	
総合評価割合		50	50	100	
総合評価		50	50	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学, 新基礎数学問題集, 新線形代数, 新線形代数問題集, 新微分積分 I, 新微分積分 I 問題集 (以上, 高遠節夫ほか, 大日本図書)				
担当教員	佐藤 公男				
到達目標					
代数幾何 (関数と方程式, 指数と対数, 図形, 三角関数, 数列, ベクトル, 行列, 複素数など) と微分積分I (増減, 導関数, 不定積分, 定積分, 面積と体積など) の日本語による表記と基礎概念を理解し, その基本的な性質を利用して具体的な計算ができるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
代数幾何	教科書のほとんどの問題を自力で解ける。		誘導を与えられることにより, 教科書レベルの問題がほとんど自力で解ける。		誘導を与えても, 教科書レベルの問題がほとんど解けない。
微分積分I	教科書のほとんどの問題を自力で解ける。		誘導を与えられることにより, 教科書レベルの問題がほとんど自力で解ける。		誘導を与えても, 教科書レベルの問題がほとんど解けない。
微分積分II	教科書のほとんどの問題を自力で解ける。		誘導を与えられることにより, 教科書レベルの問題がほとんど自力で解ける。		誘導を与えても, 教科書レベルの問題がほとんど解けない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本校3年次の数学科目や専門科目の学習に必要な2年次までの数学の履修すべき内容を修得する。また, 日本語による表記を理解し, 不足している学習内容を補完し, 3年次編入留学生の3年次授業への移行を補助する。さらに, 3年次で履修した数学についても, その理解度について確認した上で, 数学がベースとなっている専門基礎科目への応用方法について振り返る。				
授業の進め方・方法	前半は代数幾何を中心に, 後半は微分積分を中心に進める。各学習内容の例題や演習を通して, 必要に応じてホワイトボードを使って質疑応答を行いながら, その理解度及び専門基礎科目への応用力について確認する。 【事前学習】 次回の授業内容 (教科書) を確認しておくこと。 【事後学習】 指定された教科書の演習問題を解き, レポートとして次回までに提出すること。 【確認試験】 授業の進捗にあわせて, 基礎的能力の確認のための小テストを前期と後期にそれぞれ複数回実施する。				
注意点	初回の授業において, 教員作成のチェックシートを用いて, 2年次までに学習しておくべき内容 (用語の日本語及び英語表記を含む) の履修の有無について明確にしておく。 授業は, 学生の理解の程度に合わせて, 不足している部分に学習時間を多く割いたり, より高度な内容に踏み込むなど, 柔軟に対応する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	代数: 数と式	・自然数 (正の整数), 整数, 分数, 有理数, 無理数, 実数, 平方根, 約数, 倍数, 最大公約数, 最小公倍数という日本語が解る。 ・素因数分解, 有理化の計算ができる。	
		2週	代数: 2次関数	・関数, 2次関数, 象限という日本語が解る。 ・2次関数のグラフが描ける。 ・2次関数の最大値と最小値が求められる。	
		3週	代数: 2次方程式	・複素数, 実(数)部, 虚(数)部という日本語が解る。 ・2次方程式の解の公式が使える。 ・2次方程式の解の判別式が使える。 ・2次関数と直線との交点が求められる。	
		4週	代数: 2次不等式	・2次不等式が示す範囲が解る。	
		5週	代数: 命題と等式と関数	・集合, 命題, 恒等式という日本語が解る。 ・高次方程式, 高次不等式が解る。 ・平行移動, 対称移動ができる。 ・べき関数, 分数関数, 無理関数, 逆関数の形が解る。	
		6週	代数: 指数関数と対数関数	・累乗, 累乗根, 対数という日本語が解る。 ・指数関数, 対数関数のグラフが描ける。	
		7週	幾何: 三角関数	・正弦, 余弦, 正接という日本語が解る。 ・三角形の面積, 辺の長さ, 角度を使った計算ができる。 ・加法定理, 余弦定理を用いて計算できる。	
		8週	幾何: 平面上の図形	・直線, 円, 楕円の方程式が解る。 ・2直線の交点を求めることができる。 ・直線や円の不等式による領域が求められる。 ・重心, 外心, 内心, 垂心という日本語が解る。	
	2ndQ	9週	代数: 場合の数	・場合の数, 順列, 組合せという日本語が解る。 ・二項定理を使って式を展開できる。	
		10週	代数: 数列	・等差数列, 等比数列, 無限数列, その他の様々な数列について知っている。 ・数学的帰納法という日本語が, どのような方法であるかが解る。	

		11週	幾何：平面ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ベクトルの基本演算ができる。 平面ベクトルを成分表示し、内積、外積を求めることができる。
		12週	幾何：空間ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> 空間ベクトルを成分表示し、内積、外積を求めることができる。 ベクトルの平行、垂直条件を利用することができる。
		13週	幾何：ベクトルと図形	<ul style="list-style-type: none"> 直線、平面のベクトル方程式を求めることができる。 点と直線の距離、点と平面の距離、球の方程式を求めることができる。
		14週	代数：行列と行列式	<ul style="list-style-type: none"> 行列の演算（和、実数との積、積）、逆行列を求めることができる。 演算の代表的な法則（交換、結合、分配など）を知っている。
		15週	代数：行列の応用	<ul style="list-style-type: none"> 行列を用いたベクトルの各種線形変換ができる。
		16週	代数：行列の応用	<ul style="list-style-type: none"> 正方行列の固有値、固有ベクトルを計算できる。 正方行列の対角化とその応用について理解できる。
後期	3rdQ	1週	微分：増加と減少、極大と極小、最大値と最小値	<ul style="list-style-type: none"> 関数、接線、増加と減少、極大と極小、最大値と最小値が求められる。
		2週	微分：合成関数、対数関数、指数関数、三角関数	<ul style="list-style-type: none"> 合成関数、対数関数、指数関数、三角関数の微分ができる。
		3週	微分：逆関数	<ul style="list-style-type: none"> 逆関数を求めることができる。 逆三角関数の微分ができる。
		4週	微分：高次導関数	<ul style="list-style-type: none"> べき級数の収束と発散が解る。 高次導関数を微分できる。 テイラーの定理について説明できる。
		5週	積分：不定積分	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分の定義を理解し、基本計算ができる。
		6週	積分：定積分	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の定義を理解し、基本計算ができる。
		7週	積分：置換積分と部分積分	<ul style="list-style-type: none"> 置換積分法、部分積分法を使った不定積分ができる。 置換積分法、部分積分法を使った定積分ができる。
		8週	積分：分数関数と三角関数の積分	<ul style="list-style-type: none"> 分数関数の積分ができる。 三角関数の積分ができる。
	4thQ	9週	積分：定積分の応用	<ul style="list-style-type: none"> 直線や曲線によって囲まれた様々な形の図形の面積や体積を求めることができる。
		10週	積分：定積分の応用	<ul style="list-style-type: none"> 面積や体積が求められる。 特定の範囲内の曲線の長さが求められる。
		11週	代数：複素数	<ul style="list-style-type: none"> 複素数、虚数という日本語が解る。 複素数の四則演算ができる。
		12週	代数：複素数	<ul style="list-style-type: none"> マクローリン展開、オイラーの公式を理解できる。
		13週	代数：複素数の応用	<ul style="list-style-type: none"> 正弦波交流回路における複素数の役割と使い方について理解できる。
		14週	微分：微分方程式	<ul style="list-style-type: none"> 変数分離形、同次形、線形などの1階微分方程式を解くことができる。
		15週	微分：微分方程式	<ul style="list-style-type: none"> 線形2階微分方程式を解くことができる。
		16週	微分：微分方程式の応用	<ul style="list-style-type: none"> 電気回路の過渡現象への応用について理解できる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		小テスト	演習課題	合計	
総合評価割合		40	60	100	
基礎的能力		40	50	90	
専門的能力		0	10	10	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語VI		
科目基礎情報							
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	3			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材	①大学・大学院留学生の日本語 作文編 (アルク) ②読解厳選テーマ10中上級 (凡人社) ③留学生のためのアカデミック ジャパニーズ聴解上級 (スリーエーネットワーク) ④practical Kanji 現代社会を読む700漢字vol. 1 (ASK) ⑤新完 全マスターN1語彙 (スリーエーネットワーク) ⑥テーマ別上級で学ぶ日本語改訂版 (研究社)						
担当教員	佐藤 和美, 池田 智子						
到達目標							
1. 前期に引き続き、更なる情報受信力 (聞く・読む) と発信力 (話す・書く) の習得を目指す。							
2. 漢字、語彙の一層の強化をはかり、適切な文章を書いたり、発話ができるようになる。社説のような文を読み理解し、さらにそれに対する自分の考察も日本語で出来るようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
読む	未習の語彙が含まれる文章を類推を用いて読むことが出来る。	辞書を用いて文章を読むことが出来る。	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。				
聞く	まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返せば、まとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテキストを聞いて全体から類推して情報を得ることが難しい。				
話す	身近な話題について、自分の考え・意見を述べる事が出来る。	こちらの手助けがあれば、身近な話題について、自分の考え・意見を述べる事が出来る。	自分の考え・意見を述べる事が難しい。				
書く	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことが出来る	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことがやや難しい。	表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	前期に引き続き、高専生活に適應していくために必要な日本語力を養成する。教材には日本事情・日本文化・時事的話題・科学読み物など幅広い分野を取り上げ、実際の使われ方を重視した授業活動・課題を用いて進める。これまで学んだ日本語を基礎に、更に語彙・漢字・表現力を広げ4技能 (聞く・話す・読む・書く) のバランスの取れた日本語力を身につける。口頭表現 (会話・報告・意見発表・スピーチなど) 及び作文表現 (メール・手紙・レポート・一般作文など) の力を養い、専門科目履修効果を高めると共に、コミュニケーション能力の向上を目指す。						
授業の進め方・方法	授業はタスク活動・演習を中心に行うので積極的に参加することが求められる。 (事前学習) ある程度分量のある日本語を読んだり聞いたりすることを通して、その中で使われる語彙・文法を身につける活動が授業の中心となるので、事前に内容に目を通し語彙などの確認をしておくことが望ましい。 (事後学習) 授業後は小テストに備えての復習と毎回出されるテーマに基づいた作文の作成にあたること。						
注意点	開講後、学生の日本語能力を判断した上で、授業内容や教科書を変更することがある。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	聴解: 晝 作文: 問題点を述べる 漢字: 宮崎駿監督 語彙: メディア 教科書: 健康ブームの光と影	・ 実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・ 問題点を指摘して書く ・ 宮崎駿始めアニメに関する内容の漢字の強化 ・ メディア関連の語彙の強化 ・ 内容理解強化			
		2週	聴解: 天神様 読解: 「夕」と「ハタケ」 漢字: 大相撲 メディア 教科書: 健康ブームの光と影	語彙: メ	・ 実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・ 筆者の意見を表す表現、反語疑問文の習得 ・ 大相撲に関する漢字の強化 ・ メディア関連の語彙の強化 ・ プレゼンテーション力強化		
		3週	聴解: 暗闇イベント 作文: 引用する 漢字: 夏目漱石 語彙: 経済・産業 教科書: 健康ブームの光と影	・ 実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・ 引用文を書く ・ 夏目漱石への理解と関連漢字の強化 ・ 経済・産業に関する語彙強化 ・ ニュースのリスニング強化			
		4週	聴解: 知里幸恵さん 読解: カラスの自動車利用行動 漢字: 日本人の信仰 語彙: 経済・産業 教科書: 健康ブームの光と影	・ 実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・ 論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を養成する ・ 日本人の宗教観とそれに関する漢字の強化 ・ 経済・産業に関する語彙強化 ・ 文法の強化			
		5週	聴解: 開発途上国支援 作文: 解決策を述べる 漢字: 文化のニュース 語彙: 政治・法律・歴史 教科書: 猫ばばと死刑	・ 実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・ 問題を述べ、提言する ・ 日本の文化のニュースに関する漢字の強化 ・ 政治・法律・歴史に関する語彙強化 ・ 内容理解強化			

4thQ	6週	<p>聴解：バイオミミクリ-生物に学ぶ技術- 読解：働かない働きアリ 漢字：防災-自然災害 語彙：社会問題 教科書：猫ばばと死刑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・防災-自然災害に関する漢字の強化 ・格差社会・少子高齢化に関する語彙強化 ・プレゼンテーション力強化
	7週	<p>聴解：フェアトレード 作文：手順を述べる 漢字：防災-地震 語彙：社会問題 教科書：猫ばばと死刑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・手順を明確に述べる ・防災-地震に関する漢字の強化 ・格差社会・少子高齢化に関する語彙強化 ・ニュースのリスニング強化
	8週	<p>聴解：渋滞学 読解：血液型 漢字：社会のニュース 語彙：科学・自然・地形 教科書：猫ばばと死刑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・社会のニュースに関する漢字の強化 ・自然・地形・地理に関する語彙の強化 ・文法の強化
	9週	<p>聴解：バイオトイレ 作文：指示詞を使う 漢字：選挙 語彙：技術 教科書：コンピュータ夢物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・指示詞（文脈指示）を使って社会的な問題について書く ・選挙制度に関する理解と漢字の強化 ・技術に関する語彙強化 ・内容理解強化
	10週	<p>聴解：茶の湯 読解：言葉の意味 漢字：難民五輪選手団 語彙：抽象概念 教科書：コンピュータ夢物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・オリンピック、難民問題などに関する漢字の強化 ・時間/空間に関する語彙強化 ・プレゼンテーション力強化
	11週	<p>聴解：ガラスの天井 読解：IT社会 漢字：核兵器禁止条約 語彙：抽象概念 教科書：コンピュータ夢物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・核兵器禁止条約、国際条約に関する漢字の強化 ・体の言葉を使った慣用表現の強化 ・ニュースのリスニング強化
	12週	<p>聴解：子どもの顔 読解：Kawaii 漢字：核兵器禁止条約 語彙：抽象概念 教科書：コンピュータ夢物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・核兵器禁止条約、国際条約に関する漢字の強化 ・時間・空間に関する抽象概念の語彙の強化 ・文法の強化
	13週	<p>聴解：防災教育 読解：若者 漢字：経済対策 語彙：抽象概念 教科書：学ぼう日本語 慣習/風習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・経済に関するニュースの漢字の強化 ・関係・変化に関する抽象概念の語彙強化 ・内容理解強化
	14週	<p>聴解：丁重語 読解：いじめ 漢字：働き方改革 語彙：抽象概念 教科書：学ぼう日本語 慣習/風習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の講義や発表を聞くための実践的な力を養成する ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得 ・働き方改革など社会問題に関する漢字の強化 ・関係・変化に関する抽象概念の語彙強化 ・プレゼンテーション力強化
	15週	試験	
	16週	答案返却とフィードバック	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		期末試験・小テスト	課題作文・授業中の取り組み	合計	
総合評価割合		50	50	100	
総合評価		50	50	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語Ⅶ
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	①「レポート・論文を書くための日本語文法」(くろしお出版) ②「大学生のための文章表現&口頭発表練習帳」(国書刊行会) ③読解厳選テーマ10上級(凡人社) ④留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解上級(スリーエーネットワーク)				
担当教員	佐藤 和美				
到達目標					
1.中上級日本語の語彙・表現・読解力を確実なものにし幅広く運用できるようになる。 2.口頭表現(説明・報告・発表・討論など)の力を向上させ、客観的に自分の意見を伝えることができるようになる。 3.実際のレポートや論文の例文に多く触れ、レポートや論文を書くために必要な文法を使い分けられることができるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
読む	未習の語彙が含まれる幅広い分野からの文章を類推を用いて読むことが出来る。	辞書を用いて文章を読むことが出来る。	文章を読むのに大きな手助けを必要とする。		
聞く	幅広い分野からのまとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返せば、幅広い分野からのまとまりのあるテキストを聞いて、未習語や聞き取り難い部分があっても全体から類推して情報を得ることが出来る。	繰り返しても、まとまりのあるテキストを聞いて全体から類推して情報を得ることが難しい。		
話す	様々な話題について、自分の考え・意見をより自然に述べる事が出来る。	こちらの手助けがあれば、様々な話題について、自分の考え・意見をより自然に述べる事が出来る。	より自然に自分の考え・意見を述べる事が難しい。		
書く	様々な話題について、表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことが出来る。	様々な話題について、表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことがやや難しい。	様々な話題について、表現したい内容を適切な語彙を用いて書くことに大きな手助けを必要とする。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語能力試験N1レベルの語彙・漢字・表現・文法の力を十分に発揮できることを目指して、4技能(聞く・話す・読む・書く)を関連つけた演習やタスク活動を中心に進める。日本語での情報受信力(聞く・読む)を確実にすると共に、発信力(話す・書く)の向上をはかる。公的・社会的な場面でも通用する日本語運用力を身につけることを目指す。				
授業の進め方・方法	(事前学習) 授業では、幅広い分野の日本語に触れ、様々なテーマについて自分の考えを発表するので、あらかじめ資料に目を通し語彙などは確認しておくこと。 (事後学習) 授業後はそれぞれのテーマに基づいて更なる情報を集めるなど発表の準備にあたること。				
注意点	開講後、学生の日本語能力を判断した上で、授業内容や教科書を変更することがある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	・レポート・論文の文法1課-1 書き言葉に統一する -書き言葉の文体と表現- ・読解: 漫画・アニメ	・書き言葉の文末と接続表現を用い、レポート・論文にふさわしい文章にする。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。		
	2週	・レポート・論文の文法1課-2 ・口頭発表①「わたしの好きなもの(こと)」 ・聴解: 知里幸恵さん「アイヌ民族の歴史」	・使用する語彙や表現も書き言葉にすることにより文体を統一する。 ・自分と関連のあるものを分かりやすく紹介する。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。		
	3週	・レポート・論文の文法2課-1 文の意味を明確にする -複文の適切な使い方- ・聴解: バイオミクシ「生物に学ぶ技術」	・同じ接続表現を避け、文の意味を明確にし誤解を与えない文にする。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。		
	4週	・レポート・論文の文法2課-2 ・口頭発表②紹介スピーチ2「私のお勧めの本」	・長文を避け、意味を分かりやすくし読みやすい文にする ・選んだ理由を考え、著者や内容への興味を具体的にまとめて伝える。		
	5週	・レポート・論文の文法3課-1 「こと」と「の」を使い分ける -名詞節「こと」と「の」の使い分け- ・読解: 恋×AI = ?	・名詞節の「こと」と「の」の適切な使い分けにより文法的な間違いをなくして読みやすくすることが出来る。 ・学術的な文章にふさわしいスタイルに出来る。		
	6週	・レポート・論文の文法3課-2 ・聴解: フェアトレード	・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。		
	7週	・レポート・論文の文法4課-1 文をシンプルにする -語や節の名詞化- ・読解: 見る脳、聞く脳	・大学講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。		
			・名詞化により前文の表現や「～こと」の重複を避けることが出来る。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。		

2ndQ	8週	・レポート・論文の文法4課-2 ・聴解：人はなぜ化粧をするのか	・名詞化を正確に行うことで簡潔で分かりやすい文にする。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。	
	9週	・レポート・論文の文法5課-1 語彙を適切に選択する -レポート・論文でよく使う語彙の使い分け-	・類義語を文脈によって使い分けたり、漢語を適切に使うことで読み手にわかりやすいレポート・論文にすることが出来る。	
	10週	・レポート・論文の文法5課-2 ・口頭発表③紹介スピーチ3「わたしの尊敬する人物」	・自分が尊敬する人について、どのような人か、どんな活動をしているかについて発表する。	
	11週	・レポート・論文の文法6課-1 文を首尾一貫させる -文頭と文末の呼応- ・読解：外来生物の今	・文頭と文末の呼応により自然で理解しやすい文にすることが出来る。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。	
	12週	・レポート・論文の文法6課-2 ・聴解：茶の湯	・疑問詞や副詞との呼応により文の意味を誤解なく伝えることが出来る。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。	
	13週	・レポート・論文の文法7課-1 形が似ている表現を使い分ける -助詞相当語の使い分け- ・読解：日本人と宗教	・助詞相当語の適切な使い分けにより、事実の情報源、レポートのテーマ、行為の対象などを明確に伝えることが出来る。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。	
	14週	・レポート・論文の文法7課-2 ・口頭発表④新聞/雑誌記事紹介1	・助詞相当語の使い分けにより、ある評価や価値判断について、誰が持っているのか、誰・何についてのものか、どのような立場からものかを明確に伝えることが出来る。 ・記事を選び、要旨をまとめて発表する。	
	15週	・レポート・論文の文法8課-1 「は」と「が」を使い分ける -助詞「は」と「が」の使い分け-	・「は」と「が」の使い分けにより、主語をはっきりさせ長文でもわかりやすい文にすることが出来る。	
	16週	・前期まとめ		
	3rdQ	1週	・レポート・論文の文法8課-2 ・口頭発表⑤新聞/雑誌記事紹介2	・「は」を使うことにより2つの事柄の対比をはっきり示す。また、文章の中のまとまりや文と文のつながりを表す。 ・記事を選び、要旨をまとめて発表する。
		2週	・レポート・論文の文法9課-1 書き手の視点を示す -他動詞・自動詞（使役形・受身形）- ・聴解：ガラスの天井	・他動詞・自動詞（使役形・受身形）の使い分けにより、視点が統一された読みやすい文にすることが出来る。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。
		3週	・レポート・論文の文法9課-2 書き手の視点を示す -他動詞・自動詞（使役形・受身形）- ・読解：お花見	・他動詞と自動詞（使役系と受身形）の使い分けによって、レポート・論文全体の中で、解説・背景説明の部分なのか、筆者の行為や出来事の責任者・要因を表す部分なのかを示すことが出来る。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。
		4週	・レポート・論文の文法10課-1 過去と現在のつながりを示す -ル形・タ形・テイル形 ・テイタ形- ・聴解：防災教育	・ル形・タ形・テイル形の使い分けにより取り上げる出来事の「時」を正しく表すことが出来る。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。
		5週	・レポート・論文の文法10課-2 過去と現在のつながりを示す -ル形・タ形・テイル形 ・テイタ形- ・口頭発表⑥プレゼンテーション-1 -アンケート調査結果を発表する-	・タ形・テイル形の使い分けにより、出来事の報告なのか参考資料からの引用かの違いをはっきりさせる。 ・何について調査をしたいかテーマを決める。調査を行うことによって何らかの提案を行うことが出来るかどうか話し合う。設問と選択肢を考える。
		6週	・レポート・論文の文法11課-1 文章の中の語を指し示す -指示詞「こ」と「そ」の使い分け- ・読解：学校で起きていること	・コ系指示詞とソ系指示詞の使い分けによりレポート・論文の中心的なテーマに関わる語かどうかを表すことが出来る。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。
		7週	・レポート・論文の文法11課-2 文章の中の語を指し示す -指示詞「こ」と「そ」の使い分け-	・ソ系指示詞を使った文型を適切に使うことにより、同じ語の繰り返しを避けたり、前後の文の意味関係を明示したりすることが出来る。
8週		・口頭発表⑥プレゼンテーション-2 -アンケート調査結果を発表する- ・聴解：丁重語	・アンケートを実施する前に調査結果を予想し、調査の前にまとめておく。 ・大学の講義や研究発表を聞く実践的な力を養成する。	
4thQ	9週	・レポート・論文の文法12課-1 前後の関係を示す -接続詞・接続表現の使い分け-	・接続詞・接続表現により、前後の語・節・文がどんな関係かを示すことが出来る。	
	10週	・レポート・論文の文法12課-2 ・読解：夫婦別姓をめぐる	・意味や形化似ている接続詞・接続表現を使い分けることで文章をより正確に、論理的に表すことが出来る。 ・様々な分野の文章を読み、より広い視野と主体的に考えていく力の習得。	
	11週	・レポート・論文の文法13課-1 前の文に関係づける-「のだ文」の使い方-	・「のだ文」によって前の文の内容に関係する文であることを示すことが出来る。	
後期				

		12週	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文法13課-2 ・口頭発表⑥プレゼンテーション-3 	<ul style="list-style-type: none"> ・「のだ文」によって前の文に対する疑問や、前の文の内容の原因・結果・言い換え・結論・データ解釈、段落のまとめ等を表すことができる。 ・調査結果をもとにグラフに表し、発表用のスクリプトを作成する。
		13週	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文法14課-1 効果的に意見を述べる-意見を述べる文末表現の使い分け- 	<ul style="list-style-type: none"> ・ル形、テイル形の使い分けにより自分の意見と他者の意見や一般的な意見を区別できる。
		14週	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文法14課-2 ・口頭発表⑥プレゼンテーション-4 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な文末表現を使用することで、事実と意見・判断の区別が出来、レポート・論文の論理性や客観性を高めることが出来る。 ・調査結果をもとにグラフに表し、発表用のスクリプトを作成する。
		15週	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭発表⑥プレゼンテーション-5 ・課題レポートのフィードバック他 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を尽くして相手が理解できるように説明する。発表者の一方通行にならないように質問にもしっかり答えられるようにする。
		16週	・口頭発表予備日	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	発表	課題レポート	授業中の取り組み	合計	
総合評価割合	40	40	20	100	
総合評価割合	40	40	20	100	

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	一般科学演習 II
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書 「高専の数学1」森北出版株式会社、「高専の数学2」森北出版株式会社、「高専の数学3」森北出版株式会社 「例題と演習で学ぶ電磁気学」森北出版株式会社、「電磁気学演習」共立出版 「電気回路」オーム社、「電気回路の計算」オーム社 「電子計算機の基礎」培風社、「Cによるアルゴリズムとプログラム」株式会社昭晃堂				
担当教員	鈴木 順				
到達目標					
知能エレクトロニクスコースの4年次の留学生向けに、専門科目に係る基礎知識、専門用語として用いられる日本語、英語等に関して演習形式の授業を行う。また、報告書や発表手法のまとめ方について留学生のレベルに合わせた指導を行い、日本語での成果発表、論文執筆等の技術の向上を目的とする。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
コミュニケーション能力	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを行うことができる。	様々な方法でコミュニケーションを図ろうとしている。	日本語で他者とコミュニケーションすることにおいて消極的である。		
専門的能力 (数学・電磁気学・電気回路・情報基礎)	専門知識を用い、基本的な数学・電磁気学・電気回路・情報基礎について説明できる。	基本的な数学・電磁気学・電気回路・情報基礎について、書いたりすることができる。	基本的な数学・電磁気学・電気回路・情報基礎について、書いたりすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学・電磁気学・電気回路・情報基礎に関する知識の獲得を中心に進めながら、基本的な数学・電磁気学・電気回路・情報基礎を日本語で理解し説明する技術を学ぶ。				
授業の進め方・方法	教員と1対1で授業を行い、演習などを通して日本語での表現方法や専門知識の習得を行う。				
注意点	授業前に内容を予習し、授業後に授業で学んだことを振り返り理解に努めて欲しい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	一般科学演習IIの数学・電磁気学・電気回路・情報基礎の演習の進め方を理解できる。	
		2週	演習1	電気回路の仕事量と電力についての問題の解法について説明できる。	
		3週	演習2	電気回路の直流回路の問題についての解法を説明できる。	
		4週	演習3	電気回路の交流回路の問題についての解法を説明できる。	
		5週	演習4	電気回路の過渡応答の問題についての解法を説明できる。	
		6週	演習5	電磁気学の導線に流れる電流が作る磁界の強さについての問題の解法を説明できる。	
		7週	演習6	電磁気学の多数の導線に流れる電流が作る磁界の強さや導線が受ける力の問題の解法を説明できる。	
		8週	演習7	電磁気学のローレンツ力の問題についての解法を説明できる。	
	2ndQ	9週	演習8	情報基礎の論理式について説明できる。	
		10週	演習9	情報基礎のアルゴリズムの問題の解法について説明できる。	
		11週	演習10	数学の基礎的な問題 (2次方程式、等比数列等) の解法について説明できる。	
		12週	演習11	数学の偏微分の問題の解法について説明できる。	
		13週	演習12	数学の行列式の問題の解法について説明できる。	
		14週	演習13	微分方程式・フーリエ変換の問題の解法について説明できる。	
		15週	振り返り	前期に得た知識の振り返りを行い、知識を定着させる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		実習	合計		
総合評価割合		100	100		

基礎的能力	50	50
專門的能力	50	50

仙台高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	一般科学演習Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合工学科 I 類 (留学生)		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	4	
教科書/教材	「例題と演習で学ぶ電磁気学」森北出版株式会社				
担当教員	鈴木 順				
到達目標					
知能エレクトロニクスコースの4年次の留学生向けに、専門科目に関係する基礎知識、専門用語として用いられる日本語、英語等に関して演習形式の授業を行う。また、報告書や発表手法のまとめ方について留学生のレベルに合わせた指導を行い、日本語での成果発表、論文執筆の技術の向上を目的とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
コミュニケーション能力	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを行うことができる。		様々な方法でコミュニケーションを図ろうとしている。		日本語で他者とコミュニケーションすることにおいて消極的である。
専門的能力 (数学・電磁気学)	専門知識を用い、基本的な数学・電磁気学を説明できる。		基本的な数学・電磁気学について、書いたりすることができる。		基本的な数学・電磁気学について、書いたりすることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学・電磁気学に関する知識の獲得を中心に進めながら、基本的な事項を日本語で理解し説明する技術を学ぶ。				
授業の進め方・方法	教員と1対1で授業を行い、演習や課題などを通して日本語での表現方法や専門知識の習得を行う。				
注意点	授業前に内容を予習し、授業後に授業で学んだことを振り返り理解に努めてほしい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		一般科学演習Ⅲの進め方について理解する。
		2週	電磁気学演習1		電磁気学を学ぶにあたり、ベクトルを中心として数学の基本問題の解法を説明できる。
		3週	電磁気学演習2		静電界の問題の解法を説明することができる。
		4週	電磁気学演習3		静電界の問題の解法を説明することができる。
		5週	電磁気学演習4		分布する電荷による静電界の問題の解法を説明できる。
		6週	電磁気学演習5		分布する電荷による静電界の問題の解法を説明できる。
		7週	電磁気学演習6		物質中の静電界の問題の解法を説明することができる。
		8週	電磁気学演習7		物質中の静電界の問題の解法を説明することができる。
	4thQ	9週	電磁気学演習8		電流界の問題の解法を説明することができる。
		10週	電磁気学演習9		静磁界の問題の解法を説明することができる。
		11週	電磁気学演習10		静磁界の問題の解法を説明することができる。
		12週	電磁気学演習11		物質中の静磁界の問題の解法を説明することができる。
		13週	電磁気学演習12		物質中の静磁界の問題の解法を説明することができる。
		14週	電磁気学演習13		電磁誘導の問題の解法を説明することができる。
		15週	振り返り		一般科学演習Ⅲの振り返りを行い、全体の問題の解法について再確認する。
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		演習	合計		
総合評価割合		100	100		
基礎的能力		50	50		
専門的能力		50	50		